

懐かしき和の魅力を未来へと繋いでいく

国登録有形文化財

「旧加藤家住宅」



所在地 北名古屋市六ツ師字南屋敷704-1



【離れ・茶室】
茶室は南と西にぬれ縁、北には離れとの出入口が設けられた開放的な造りになっている



【中門】
東庭と西庭の境に設けられた中門。付随する塙は、主屋と土蔵の間に仕切る役割をしている

人のぬくもりや暮らしを感じる

登録有形文化財の在り方

明治期の伝統的建築様式がよく維持されており文化的にも歴史的にも価値が高いということから、市に寄贈された翌年の平成11年11月18日に国の登録有形文化財として登録を受けた。この文化財登録制度は、生活様式の変化などにより消滅の危機にさらされている多種多様な近代の建造物等を後世に継承していくための制度で、重要文化財よりも緩やかな規制で築50年以上の建造物等を保存し、かつ積極的に活用することが望まれている。

住宅を現代に生きる私たちになんらかの形で活用することはできないだろうか？と模索された結果、ひとつの活用方法として、平成14年、敷地内に思い出ふれあい事業の拠点となる「回想法センター」が竣工された。現在は回想法センターが窓口となり年間におよそ9000人が来場し、棧瓦葺き、切妻屋根の旧家の伝統的建築様式に懐かしさを感じながら、当時の思い出を語り合ったり昔遊びを楽しんだりして活用されている。確かに長屋門をぐぐり庭を通り、当時の生活道具が残った屋敷内を散策すると、ついさっきまで誰かが生活していたような、実際に住んでいたわけではない私たちがさえずるノスタルジーを覚えずにはいられない引き込まれるような魅力を感じる。

地域に根差し

後世に残していきたい旧加藤家住宅とは

寺院や昔ながらの民家が多く点在する北名古屋市六ツ師に、黒い高壁に囲まれた「旧加藤家住宅」と呼ばれるひと際大きな日本家屋が存在する。約40メートル四方の屋敷地周囲に塙を巡らせている370坪にも及ぶ広大な土地には、明治時代初期から昭和初期に建てられた「主屋」「土蔵」「離れ茶室」「中門」「長屋門」などからなる建物群がある。黒光りする太い梁や柱など、独特な趣を持った昔ながらの日本家屋には、現代の家屋には見られない落ち着きと味わい深さが感じられる。

そもそも「旧加藤家住宅」とは、かつて



【土蔵】
加藤家に代々伝わる家財道具が収納された二階建ての蔵。漆喰壁は第二次世界大戦中の空襲を避けるため、白壁が目立たないように黒く塗られた

誰が住んでいてどういう歴史があるのだろうか。

以前の家主は大加藤と称されるこの地域では知られた素封家で、江戸時代には旧六ツ師村の庄屋を務め、江戸末期から明治の中頃までは酒造業も営んでいた。明治時代には旧師勝村の村長も務めるなど代々村の中心的人物であったといえる。建物は当時より、修理を施しながら大切に生まれ続けており、尾張地域でこのように明治期の典型的な建物が良好に保存されているケースは数少ない。そこで、平成10年「地元の歴史的文化的向上に役立ててもらいたいながら後世に残されることが一番いい。」という考えのもと土地と建物が旧師勝町へ寄贈され、現在では北名古屋市が管理、運営をしている。



【北高塙】
屋敷の周囲を囲むように設けられた高壁。なかでも主屋北側の高塙は、玉石を積み格子窓が付いている

記憶を造る

旧加藤邸アートプロジェクト

当時の建物をそのまま残して皆で活用しようといった動きは先程の思い出ふれあい事業には留まらず、平成21年より「旧加藤邸アートプロジェクト」が開催されている。これは年に二度、名古屋芸術大学の学生・卒業生たちが旧加藤家住宅の建物や庭をテーマにアート作品を展示するもので、昨年で6回目の開催となるが「旧加藤邸アートプロジェクト」のテーマは初回から一貫して掲げられている。記憶の庭で遊ぶ。学内公募を通過した約14作品はそれぞれが加藤邸にインスピレーションを受け作られており、木材や布、段ボールや時にはコンピューターなどによって様々な記憶が表現されている。

同じ建物を見ても感じ方は人それぞれ違う。当たり前なことだがアートプロジェクトの作品はそれを形にすることで顕著に物語っているのだ。様々な物が時代の変化とともに形を変えて新しくなっていく中で、そこに息づいていた記憶や暮らしを感じる事ができる建物が現存し、開放されている例は県全体で見ても非常に珍しいとのこと。足を運び、自分ながらの懐かしさを感じてみるのもいいだろう。



例年秋頃に行われる旧加藤邸アートプロジェクトは、期間中誰でも作品を観賞することができます



北名古屋市が実施している回想法スクールの修了者たちが継続して回想法を楽しむグループ「思い出の園」による案内の様子

ひなまつり会

日 時 平成28年2月25日(木)

午前10時30分～11時30分

場 所 旧加藤家住宅

内 容 レクリエーションゲーム等

参加費 50円

※申込みは回想法センターへ (tel.0568-24-5337)



旧加藤家でひなまつり会をはじめ、年間およそ80を超えるイベントが開催される